

- 問1 7世紀初頭、聖徳太子らが進めた国家づくりにおいて、大陸から伝わった仏教が果たした役割とその文化的な特徴について説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2017年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 遣隋使の派遣などを通じて大陸の優れた技術や思想が伝わり、法隆寺などの本格的な寺院が建立された。 | 2. 大宝律令の制定により全国が統治され、国家の安泰を願って東大寺に大仏が造られた。 | 3. 遣唐使が廃止されたことにより、日本の気候や生活に合わせた独自の貴族文化が発達した。 | 4. 稲作の技術とともに青銅器や鉄器が伝わり、卑弥呼が中国の魏から金印を授かった。 |
|--|--|--|---|
- 問2 飛鳥時代において、朝鮮半島から伝来した新しい宗教である仏教を積極的に受け入れ、聖徳太子（厩戸王）と協力して政治改革を推進した有力豪族を答えなさい。 (2022年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|-------|--------|
| 1. 蘇我氏 | 2. 藤原氏 | 3. 平氏 | 4. 北条氏 |
|--------|--------|-------|--------|
- 問3 645年に始まった政治改革において、中大兄皇子らが進めた「天皇を中心とした国づくり」の具体的な内容として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 土地や人民は豪族が私有するのではなく、すべて国家のものとする公地公民の原則を打ち出した | 2. 実力のある人物を役人に登用するため、冠位十二階の制度をより強化して豪族の特権を認めた | 3. 武士の力を結集して幕府を開き、貴族に代わって武家が政治の主導権を握る仕組みを作った | 4. 地方の豪族に土地の支配権を完全に委ねることで、各地域の農業生産力を向上させた |
|--|---|--|---|
- 問4 奈良県に位置し、聖徳太子によって建立されたと伝えられる寺院で、現存する世界最古の木造建築物として知られる名称を次のの中から選びなさい。 (2015年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|--------|--------|
| 1. 唐招提寺 | 2. 東大寺 | 3. 法隆寺 | 4. 薬師寺 |
|---------|--------|--------|--------|
- 問5 7世紀後半、日本が白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、九州北部の防衛を強化するために大宰府の北西に築かれた、全長約1.2kmに及ぶ巨大な土塁と堤防からなる防衛施設を何といいますか。 (2024年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|-------|--------|--------|
| 1. 大仙古墳 | 2. 水城 | 3. 壇ノ浦 | 4. 多賀城 |
|---------|-------|--------|--------|
- 問6 飛鳥時代における歴史的事項を記した年表において、672年に「壬申の乱」が起こったとの記載があります。この乱に勝利し、その後に即位して天皇中心の中央集権体制をさらに進めた人物は誰ですか。 (2024年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 後三条天皇 | 2. 天智天皇 | 3. 推古天皇 | 4. 天武天皇 |
|----------|---------|---------|---------|
- 問7 663年、日本（倭）は百済の復興を助けるために軍を派遣しましたが、唐と新羅の連合軍に白村江の戦いで大敗しました。この敗戦を受けて、当時の天智天皇（中大兄皇子）が行った国内の防衛対策や体制整備として正しいものはどれか、次の説明文から選びなさい。 (2021年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 朝鮮半島への影響力を維持するため、高句麗と新たな同盟を結び、都を内陸の平安京へ移した。 | 2. 唐や新羅の侵攻に備えるため、九州の沿岸部に防人を配置し、水城などの防衛施設を築いた。 | 3. 大陸の進んだ文化を直接取り入れるため、初めての遣隋使として小野妹子を派遣し、冠位十二階を定めた。 | 4. 仏教の力で国を守るため、全国に国分寺を建立することを命じ、東大寺に大仏を造営した。 |
|--|---|---|--|
- 問8 7世紀後半に起こった壬申の乱について、その出来事背景や結果を説明した文として最も適切なものはどれか。 (2017年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 地方武士の不満が高まったことで発生し、平将門が関東で自ら「新皇」を名乗って朝廷に反旗を翻した。 | 2. 天智天皇の後継者をめぐって起こり、勝利した大海人皇子が天武天皇となって天皇中心の国づくりを進めた。 | 3. 天皇を退位したあとも政治の実権を握ろうとした白河上皇が、藤原氏の摂関政治を抑えるために院政を開始した。 | 4. 仏教勢力の影響を排除し、政治を立て直すために、桓武天皇が都を平城京から平安京へと移した。 |
|--|--|--|---|
- 問9 7世紀初め、推古天皇の摂政であった聖徳太子（厩戸王）は、中国の高度な制度や文化を学ぶために小野妹子らを派遣しました。このとき、小野妹子らが派遣された、南北に分かれていた中国を約300年ぶりに統一した王朝の名前として正しいものを選びなさい。 (2021年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 秦 | 2. 唐 | 3. 隋 | 4. 漢 |
|------|------|------|------|
- 問10 推古天皇が聖徳太子を「摂政」に登用して行った政治の説明として、当時の制度や目的をふまえたものとして最も適切なものはどれですか。 (2026年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 武士の力を抑えるために聖徳太子を任命し、地方の反乱を鎮圧するための軍事指揮権を与えた。 | 2. 平城京への遷都を円滑に進めるため、聖徳太子に新しい都の設計と建設の全権を委ねた。 | 3. 日本独自の国風文化を育てるため、聖徳太子に命じて遣隋使の派遣を停止し、大陸との交流を断った。 | 4. 天皇を助けて政治を行う役割として聖徳太子を据え、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を目指した。 |
|--|---|---|---|
- 問11 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）が、政治に関わる役人の心構えを説き、天皇の命令には必ず従うべきであることなどを示した法を何といいますか。 (2021年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|------------|----------|----------|
| 1. 十七条の憲法 | 2. 五箇条の御誓文 | 3. 御成敗式目 | 4. 武家諸法度 |
|-----------|------------|----------|----------|
- 問12 飛鳥時代に聖徳太子（厩戸王）が制定したとされる、政治を行う役人（官吏）の心得や道徳を示した法規を何といいますか。 (2026年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|----------|----------|---------|
| 1. 十七条の憲法 | 2. 御成敗式目 | 3. 公家諸法度 | 4. 大宝律令 |
|-----------|----------|----------|---------|
- 問13 7世紀初めの日本において、聖徳太子らが「冠位十二階」を定めた背景には、天皇中心の政治を強化しようとする意図がありました。この制度の特徴について述べた文として、正しいものを一つ選びなさい。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 遣唐使として派遣された留学生の意見を取り入れ、全ての土地と人民を天皇のものとした。 | 2. 役人が職務を行ううえでの心構えを説いたもので、儒教や仏教の考え方が取り入れられた。 | 3. 豪族の身分を固定化し、その子孫が代々高い地位を継承することを保障した。 | 4. 個人の才能に応じて十二段階の冠を授けるもので、冠を授かった者一代限りの位とされた。 |
|--|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 遣隋使の派遣などを通じて大陸の優れた技術や思想が伝わり、法隆寺などの本格的な寺院が建立された。	飛鳥時代には、小野妹子ら遣隋使が派遣され、大陸の高度な文明が積極的に導入されました。これに伴い、寺院建築の技術や彫刻の技法ももたらされ、それまで日本になかった本格的な仏教文化が飛鳥の地を中心に花開きました。他の選択肢にある国風文化は平安時代、大仏建立は奈良時代（天平文化）、卑弥呼は弥生時代の出来事です。
問2	答え 1 蘇我氏	古墳時代末期から飛鳥時代にかけて勢力を伸ばした蘇我氏は、渡来人と結びついて大陸の新しい文化や仏教を積極的に取り入れました。蘇我馬子は聖徳太子と協力し、冠位十二階や十七条の憲法の制定、遣隋使の派遣など、天皇中心の国づくりに尽力しました。
問3	答え 1 土地や人民は豪族が私有するのではなく、すべて国家のものとする公地公民の原則を打ち出した	大化の改新では、当時の中国（唐）の制度を参考に、それまで豪族が個別に支配していた土地や人民を国家が直接管理する「公地公民」の制度を目指しました。これにより、全国的な徴税や戸籍の作成が可能になり、天皇による中央集権体制の基礎が築かれました。
問4	答え 3 法隆寺	飛鳥時代を代表するこの寺院は、斑鳩の地に聖徳太子（厩戸王）によって建てられました。金堂や五重塔などの西院伽藍は、幾度かの再建を経ているものの、世界最古の木造建築群として1993年には日本で初めてユネスコの世界文化遺産に登録されました。
問5	答え 2 水城	663年の白村江の戦いで大敗した倭（日本）は、唐や新羅が日本列島へ侵攻してくることを強く警戒しました。そのため、天智天皇（中大兄皇子）は九州北部の外交・軍事の拠点であった大宰府を保護するため、福岡平野の最も狭まった場所に巨大な土塁を築き、その外側に水を貯えた「水城」を建設して防衛線を整えました。
問6	答え 4 天武天皇	672年に起こった壬申の乱は、天智天皇の死後にその弟の大海人皇子と、子の大友皇子が皇位をめぐる対立した古代最大の内乱です。この戦いに勝利した大海人皇子が天武天皇として即位しました。天武天皇は、飛鳥浄御原令の編纂に着手したり、国史（古事記・日本書紀）の編纂を命じたりするなど、天皇の権力を絶対的なものにするための政策を次々と打ち出しました。
問7	答え 2 唐や新羅の侵攻に備えるため、九州の沿岸部に防人を配置し、水城などの防衛施設を築いた。	白村江の戦いで大敗した日本は、唐や新羅が日本列島へ攻めてくることを強く警戒しました。そのため、九州の対馬や筑紫に防人（さきもり）と呼ばれる兵士を配備し、北九州に水城（みずき）や山城を築いて防衛を固めました。また、天智天皇は都を飛鳥から内陸近江の大津宮へ移し、国内の支配体制を急いで整えようとしていました。
問8	答え 2 天智天皇の後継者をめぐって起こり、勝利した大海人皇子が天武天皇となって天皇中心の国づくりを進めた。	壬申の乱は、大化の改新から続く律令国家形成の過程で発生した極めて重要な内乱です。勝利した天武天皇は、それまでの豪族中心の政治から、天皇に権力を集中させる政治体制へと移行させ、後の大宝律令の完成へとつながる基礎を固めました。他の選択肢は、8世紀末から11世紀にかけての異なる時代の出来事です。
問9	答え 3 隋	聖徳太子は、中国の統一王朝である隋に対して「遣隋使」を派遣しました。それまでの朝鮮半島を通じた交流だけでなく、中国と直接国交を結ぶことで、先進的な仏教文化や政治制度を直接取り入れ、天皇を中心とする中央集権国家の確立を目指しました。
問10	答え 4 天皇を助けて政治を行う役割として聖徳太子を据え、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を目指した。	推古天皇の時代、有力豪族である蘇我氏の影響力が強い中で、天皇は聖徳太子を摂政に任命することで、血縁や家柄に依存しない官僚制（冠位十二階）などの導入を図りました。これは、特定の豪族に権力が集中するのを防ぎ、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を築くことが目的でした。
問11	答え 1 十七条の憲法	聖徳太子が推古天皇の摂政として政治を行っていた時期に制定されました。役人に対して道徳的な訓戒を与え、天皇を中心とした国家体制（中央集権国家）を築くことを目的としています。仏教や儒教の教えが取り入れられている点も大きな特徴です。
問12	答え 1 十七条の憲法	聖徳太子が定めた官吏の心得は十七条の憲法です。和の精神や仏教の尊重、天皇の命令に従うことなどが示されています。大宝律令は飛鳥時代後半に制定された本格的な律令であり、御成敗式目は鎌倉時代に武士のために作られた法規となります。
問13	答え 4 個人の才能に応じて十二段階の冠を授けるもので、冠を授かった者一代限りの位とされた。	冠位十二階は、功績があった本人に位（冠）を与える制度であり、その地位は子孫に引き継がれる「世襲」ではありませんでした。家柄に関係なく、実力のある人物を役人として引き立てるこの仕組みは、当時の中国（隋）の制度も参考にされています。また、役人の心構えを説いたものは、同時期に制定された「十七条の憲法」です。